

10月15日~21日

新聞週間

新聞の魅力は、まず毎朝必ず届くこと。台風でも大雪でも、よくこんな悪天候の中を、という朝もちゃんと届いている。それだけで、もう頼もしい。人の手を經由して手元に届いたということに貴重さがある気がする。

中学生作家

鈴木るりかさん



すずき・るりか 2003年東京都生まれ。小学4~6年の時、「12歳の文学賞」で3年連続の大賞を受賞。昨年10月刊のデビュー作「さよなら、田中さん」が10万部のベストセラーに。今月、第2作「14歳、明日の時間割」を刊行。現在、都内の中学3年生。

世の中わかる小説のヒント

最近の記事だと、オレオレ詐欺で息子のふりをして「フルーツを送る」とうその電話をし、住所を聞き出すという新しい手口が印象に残った。

で、思わず笑ってしまった。たった2行の文章に親子の関係が垣間見えたような気がした。

私の小説には、新聞を読んではいけない書けなかった話、出てこなかった表現というのがある。過不足なく相手に伝える技術も勉強になる。

校長室から ひがしなら通心

(H30年度) 茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 32

平成30年10月15日(月)発行

おめでとうございます!

この5月、第51回おかあさんの詩(主催:ハナマルキ株式会社、後援:毎日小学生新聞)コンクールに応募した5年生の江越 美音さんが準秀作を受賞しました。おめでとうございます!



このコンクールはハナマルキが「母の日」に向けて行い、今年で51回目となりました。今年、全国から1322点の応募がありました。

おかあさんは毎日毎日、家族みんなのために仕事に家事に全力で走っています。おかあさんのおかあさん、そのまたおかあさんも家族のためにがんばってきました。そんなおかあさんに「ありがとう」の気持ちを込めたのが「おかあさんの詩」です。

「そんけいするよ」
お母さんは朝早くに仕事に行き夕方に帰って来て私に「ただいま。」と言い、すぐにカバンをおろしエプロンをかける。一言もしゃべらず夜ごはんを作る。それが毎日のように続く。仕事がない日曜日も、朝早く朝ごはんを作る。お母さんの頭の中には休けいという言葉はそん在しない。私が「ちょっと休けいしたら。」と言うと「だいじょうぶ。まだ元気だよ。」と言う。お母さんは「すごい。」
そんなお母さんをいつまでもそんけいします。

- とつにみんなでまとまろう!
くりよくと体力をのばそう!
しっかりせいかつしよう!
かよく友だちとすごそう!
らんらん夢に向かう東奈良っ子!